

保護者の皆さま

啓明学院中学校・高等学校  
校長 指宿 力

### 一学期終業に際して

主の御名を賛美いたします。

本日終業式を行い、2020年度の一学期を終えました。今年は経験したことのない事態の下、3月から5月末まで休校となりましたが、この間のご家庭での学びにおいて、学習環境を整えていただくなど多くのお支えを賜り、本当にありがとうございました。また、休校に伴い、スケジュールの変更もいたしました。必要な授業数の確保について予定通り進めることが出来たことは、ご家庭の理解があつたことと感謝しております。

6月の学校再開後は安心して登校させていただくため、学校生活ガイドラインを策定し、教職員皆でこれに取り組んで参りましたが、ご家庭でも様々なご協力を賜りありがとうございました。また、マスクや手指消毒液を始め、なかなか手に入りにくい感染症対策に必要な物品を御寄贈いただくとも多く、本当に感謝しております。ありがとうございました。

明日からいつもの年に比べると短い夏期休業期間となりますが、生徒とともにご家庭のお一人お一人の安全と健康をお祈りしております。

また、二学期以降も様々な行事が控えておりますが、感染状況を注視しながら、時宜に適った対応を行っていきたいと考えています。これまでも生徒たちは多くの我慢をし、今の状況下特有の配慮も互いにせざるを得ない中、それでもそれぞれに啓明生としての自分自身を一生懸命輝かせてくれています。7月末からの陽性者数の増加に不安を覚える中ではありますが、これからも生徒たちの思いにしっかりと心を寄せて、保護者の皆さんと共に彼ら彼女ら一人一人の中学、高校生活を守っていきたく願っています。

新約聖書フィリピの信徒への手紙4章6節、7節に次のような言葉があります。

『どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。』

今から17年前の出来事です。夏休み明けに私自身が足に大きな怪我をして、随分長い間入院したことがありました。その時、差し入れていただいた本の中にこの聖句が記されており、すっかり落ち込み、滅入っていた心に、大きな励ましが与えられたことを覚えています。大人であってもこれからどうなるか、不安が募る今の時期に、この言葉に向き合い、神様に素直に願いを祈ることが出来ればと願い、保護者の皆さんにも紹介させていただきます。

ここに「思い煩うのはやめなさい」とありますが、けっしてこれは考えるのをやめなさい、ということではないでしょう。むしろ様々なことを考え、努力している我々は、神を信頼していないときこそ思い悩んだり、思い煩ったりするのではないのでしょうか。「求めるものを神に打ち明ける」信頼こそが神の平和に授かる恵みの入り口であるということです。神への信頼は、たとえ苦難の中にあっても、私たちが生かす希望の光を輝かすのです。それをこそ祈り、願い、求めたいものであります。

保護者の皆さまの大切な活動でもある育友会活動もなかなか計画していただいたようにお進めいただくことが出来ていませんし、新型コロナウイルスの引き起こす状況もしばらく続いていきそうですが、生徒たちの学校生活が閉じるのではなく開き、うつむくのではなく顔を上げて歩むことが出来るよう、これからも神と人に仕える人間となるために手と心を鍛えるという啓明の精神を大切に、ご家庭と両輪を組み、歩んでいきたいと考えています。この一学期間の保護者の皆様のご理解とお支えに感謝すると共に、二学期以降もどうぞよろしく願い致します。

在 主